

# 「触れてみよう！ 脳とロボット」開催

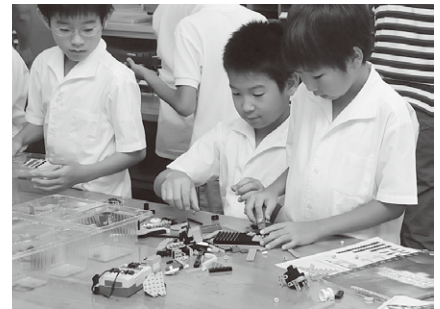
大森隆司 ●脳科学研究所・工学部教授

工学部では、脳とロボットに関する先進的な研究成果を、一般の方々に分かりやすく楽しく体験できるイベントとして「脳とロボット」を毎年開催してきました。八回目を迎えた今年は、玉川学園創立八〇周年記念事業・世界脳週間二〇〇九関連イベントとして、八月二日（日）に、工学部のある大学八号館とGB棟

で開催しました。内容は、玉川大学における脳とロボットの研究成果や研究道具を使用したゲームの展示、ロボカップ世界大会で準優勝した家庭用ロボットによるデモンストレーション、レゴブロックを使ったロボット組み立てや電子工作指導、MRI施設見学会、ソーラーカーと省エネルギー機器の



メイン会場となった大学8号館には、多数の親子連れが来場した



子どもたちに大人気の「レゴロボットを作って遊ぼう」のコーナー。黒い線に沿って走るロボットを製作した

展示、学部学生のロボットプロジェクトの学習成果の展示などでした。今年度は日曜日の開催で天候も小雨と不順でしたので、参加者は少ないのではないかと心配されましたが、約三〇〇名の参加がありました。とくにロボット組み立てと電子工作は、開始時間の午前一〇時前に、建物の玄関ロビーいっぱい希望者があり、抽選により参加者を選びました。例年の企画として、大学近隣のみならず、まに定着しつつあるものと考えています。

同時開催の企画として、日本学術振興会が科学研究の成果を一般に紹介する「ときめき・きらめきサイエ

ンス」と題して、「ロボットと暮らす生活を体験しよう」ロボカップ世界大会優勝ロボットを徹底解剖」という学習イベントを実施し、三三名の参加者がありました。参加者は未来のロボットと暮らす生活を考えつつ、ロボット工作を体験しました。

また同日の午後四時半から、京都大学霊長類研究所所長・松沢哲郎教授を迎え、玉川大学グローバルCOE特別講演会が講堂にて行われました。講演のタイトルは「人間の親子関係と知性の進化——チンパンジーの研究から」というもので、チンパンジーのいろいろな映像を見ながら、人間とチンパンジーの同じところ、違うところについて興味深い説明がありました。参加者は玉川大学の教員、学生、親子連れの一一般の方など約一五〇名でした。

このように、工学部・工学研究科・脳科学研究所は一体となって、脳やロボットに関する研究成果の紹介イベントを行っています。これからもより魅力的な活動を行ってまいりますので、ご支援よろしく願っています。